

平成28年11月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成28年11月の山梨県内の全業種のD I 値（前年同月）は、売上高、景況感ともに10ポイント改善したが、収益状況はマイナス4ポイントと悪化した。特に、非製造業の収益状況は、前年度同月比マイナス23ポイントと大幅に悪化している。

全業種D I 値の前月比で比較すると売上高は20ポイント、収益状況は2ポイント、景況感8ポイント全ての項目が改善している。アメリカ大統領選の影響を受け円安株高傾向による輸出の増加や年末年始を控えギフト商品類の需要が高まっているとの報告が寄せられた。

しかしコメントには、インバウンドの減速や天候不順に伴う生鮮食品の価格高騰、消費者マインドの低迷による景況悪化を懸念する報告も見られた。

売上D I 値の変化は、秋口の台風による野菜などの価格高騰や東京オリンピックを見据えた建築需要の拡大が資材等の価格上昇を招き、D I 値を押し上げた要因と考えられ一概に良い傾向にあると言えない。

年末を控え、人手不足の状況は各業種に広がりを見せている。特に、建設業関連については人材不足の改善が景気に大きな影響を与えるとの報告もあり、当会が独自に事業承継を含む人材不足の状況や業界の取り組み等について調査を行ったところ、企業経営を将来にわたり安定的に続けるため後継者育成や事業承継、労働条件等を改善するための支援や施策が求められている。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ホテル・レストラン向けの生食材が伸長し、全体の売上は前年同月比107%。しかし、台風の影響でエゾ鮑等の高騰により利益面は厳しい。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の量販店向けや輸出、OEMの焼き菓子や冷凍ケーキも好調だったため、全体の売上は前年同月比110%と久しぶりに前年を上回った。
食 料 品（菓子）	10月に続き11月も若干だが売上が悪化傾向。毎年9月から派遣社員を8名程度雇用するが、今年は5名しか確保出来ていない。人材不足で仕事を円滑にまわすことが、非常に難しい。
食料品（ワイン）	9月中旬からの天候不順により原料となるブドウの収穫量が20%程度減少したが、ワイン醸造技術の向上により今年も良質なワインを提供できた。
木材・木製品製造	首都圏における建売物件が好調のため、床板合板と野地板合板が地方に回ってこない。入手が困難となっている。
窯業・土石（砂利）	繁忙期を迎え骨材需要は全体的には伸長しているが、需要地域が偏っているため地域格差が大きい。

窯業・土石（山採石）	売上高は前年同月比108%と増加傾向にあるが、諸資材の高騰により利益率は下降気味であり、設備投資が出来ない状況が続いている。
鉄鋼・金属	前年同月よりは悪化。
一般機器①	郡内地域における製造業の衰退もあり、後継者問題や若年層の中小企業への雇用確保等、課題が多い。また、景気も厳しい状況が続いており、先行きの不透明が続いている。
電気機器①	人手不足感があり、従業員の高齢化が問題。
電気機器②	次期アメリカ大統領のこれからの言動次第では大きく景気が悪化すると予測。
宝飾（貴金属）	クリスマス需要を迎えているが、受注状況が悪い。

● 非製造業

卸売（紙製品）	中国国内の生産増と在庫備蓄により相場を引き上げている。しかし、日本国内の新聞、雑誌の購読が年々低下しピーク時の半分以下になっているため、古紙の仕入れ価格競争が激化している。そのため、採算割れにより閉鎖していく問屋が増えてきた。
卸売（ジュエリー）	中国経済の悪化により高額品は低調だが、低額品の需要は増加している。
小売（青果）	11月は、品不足と地域毎による価格上昇が原因で売上高は極端に増加したが、収益面は減少傾向であった。
小売（食肉）	食肉の価格は安定しているが、国産牛は高値安定が昨年度から続いているため一般消費者の客離れが始まっている。
小売（水産物）	組合員の売上減少が止まらない。経営者の高齢化により働く意欲やスーパー等の対応もできない状況。
小売（電機製品）	11月度は地域店、量販店共に前年同月比大幅ダウン。昨年は、大型店出店により地域店も好影響を受けたことから生まれた格差と分析している。
宿泊業	秋の行楽シーズンや各種イベント大会等により、稼働率は昨年同様。しかし、訪日観光客は今後減少する見込み。
美容業	婚礼シーズンと大安が土・日に重なっているため、婚礼を中心としている美容師は前年比2割ほど売上増。
廃棄物処理（事業系）	一般廃棄物処理は、各自治体によって処理能力や料金が異なるため廃棄物を排出する事業者の処理料金に格差が生まれる。特に、チェーン店や複数営業所が異なる自治体にある事業者は、収集・運搬事業者との取引料金を安価な料金の自治体に平準化するため、収集・運搬事業者の経営を逼迫させている。
警備業	工事現場の安全保管や工期内完成等の厳しい申請条件から警備員の派遣要請は急増しているが、警備員の高齢化や転職などにより警備員数が激減しているため、需要に応じられない深刻な状況になっている。

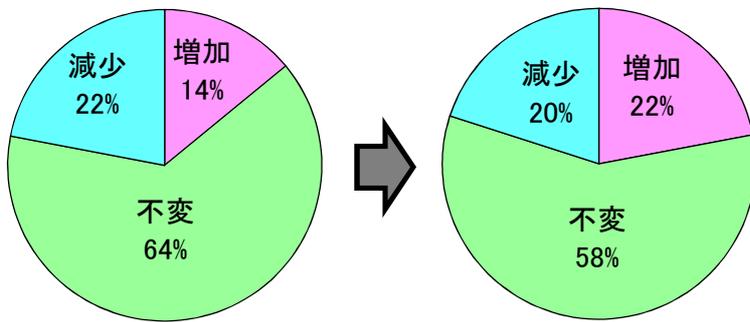
建設業（総合）	11月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は11%減少、請負金額は11%増加。11月までの累計では、件数は3%、請負金額は6%増加している。
建設業（型枠）	年末に向け工事量は増加しているが、先行きは不透明である。社会保険加入問題や職人の高齢化等、今後倒産や廃業する事業所が出てくると思われる。
建設業（鉄構）	組合員企業の仕事量の格差が広がっている。
設備工事（電気工事）	高齢により組合を脱退する会社が増加している。例年に比べ、公共・民間共に見積り依頼がほとんどない。
設備工事（管設備）	景気の低迷により売上高が前年同月比12%減少。経営者や配管工等の職人の高齢化が進んでいる。
運輸（タクシー）	売上は減少傾向。観光や夜間での利用者も少なく先行きの見通しは厳しい。
運輸（トラック）	ドライバーの確保が非常に厳しくなっている。平成29年3月の道交法改正により運転免許制度が改正され高卒者の採用条件は多少改善されるが、雇用の拡大には労働条件の改善が必要不可欠である。そのためには、国交省、厚労省、経産省が一体となり行政としてコンプライアンスを基本とした実行性のある荷主対策を早急に打ち出してほしい。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2015/11	2016/10	2016/11	2015/11	2016/10	2016/11	2015/11	2016/10	2016/11
売上高	-25	-15	5	3	-20	0	-8	-18	2
収益状況	-20	-10	5	13	-3	-10	0	-6	-4
景況感	-25	-20	-10	-13	-13	-7	-18	-16	-8

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）

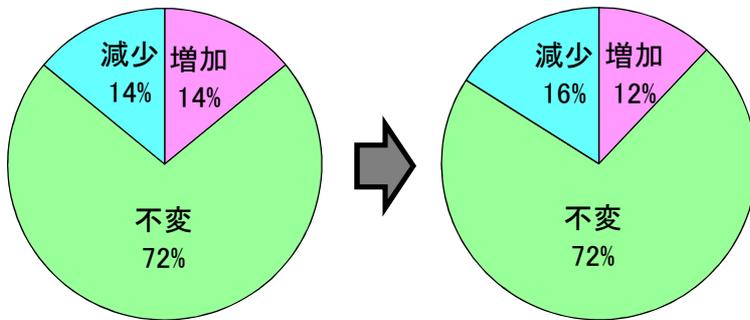


平成27年11月

平成28年11月

- ・ D I 値 + 2（前年同月比+10）
- ・ 業種別 D I 値
製造業 + 5（前年同月比+30）
非製造業 ± 0（前年同月比▲ 3）
- ・ 前月比 D I 値
製造業 20ポイント改善
非製造業 20ポイント改善

収益状況（前年同月比）

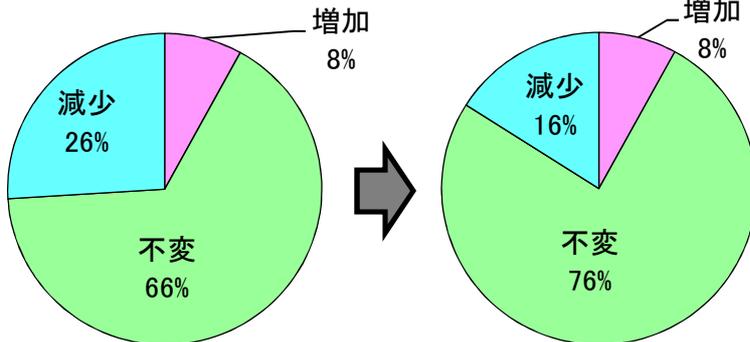


平成27年11月

平成28年11月

- ・ D I 値▲ 4（前年同月比▲ 4）
- ・ 業種別 D I 値
製造業 + 5（前年同月比+25）
非製造業 ▲10（前年同月比▲23）
- ・ 前月比 D I 値
製造業 15ポイント改善
非製造業 7ポイント悪化

景況感（前年同月比）



平成27年11月

平成28年11月

- ・ D I 値▲ 8（前年同月比+10）
- ・ 業種別 D I 値
製造業 ▲10（前年同月比+15）
非製造業 ▲ 7（前年同月比+ 6）
- ・ 前月比 D I 値
製造業 10ポイント改善
非製造業 6ポイント改善